

只見町消防団選手の結団式

5月16日、平成30年度福島県消防操法競技南会津地方大会に出場する選手の結団式が朝日振興センターで行われました。結団式では、目黒邦友消防団長と菅家町長が「県大会を目指し頑張ってください」とそれぞれあいさつし、続いての選手紹介では、小型ポンプ操法の指揮者・佐藤義樹さんが「町の代表として頑張りたい」と話し、自動車ポンプ操法の指揮者・佐藤雅幸さんが「団長を県大会に連れていきたい」と抱負を語りました。

大会は7月8日、会津高原だいくらスキー場駐車場(南会津町)で開催されます。



▲小型ポンプ操法の部に出場する第6分団・第2班(大倉)の選手の皆さん



▲自動車ポンプ操法の部に出場する第5分団・機動班(小林)の選手の皆さん

― 出場競技・選手名紹介 ―
①小型ポンプ操法の部(大倉)

指揮者 佐藤義樹
1番員 佐藤佑介
2番員 永井晃嗣
3番員 三瓶和人
補充員 三瓶錬
補欠 山内隆行

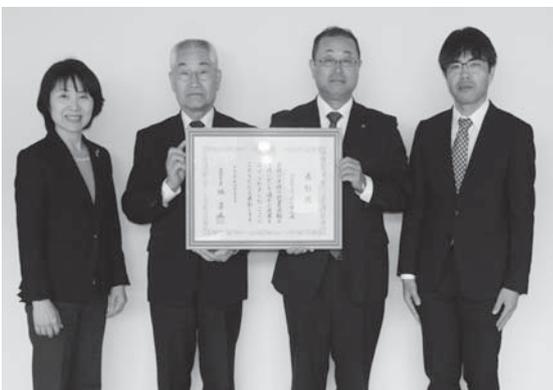
②自動車ポンプ操法の部(小林)

指揮者 佐藤雅幸
1番員 川原史紹
2番員 堀金賢二
3番員 角田裕一
4番員 堀金俊也
補充員 児島達志
補欠 角田誠

只見小が読書活動優秀実践校

5月8日、文部科学省などが主催する文部科学大臣表彰において、「子どもの読書活動優秀実践校」として表彰された只見小学校の吉野徹校長と國分洋克教頭が役場を訪れ、菅家町長に受賞報告を行いました。これは、只見小が実践している、おすすめ本紹介活動や家族全員で読書する「家読」の日の設定、読書ボランティアや学校司書などと連携した読書環境向上活動など、読書に親しむ機会を増やし、読書の質を高めたことが評価され、今回受賞となったものです。

報告を受けた菅家町長は、只見小の功績を称えました。



▲菅家町長(中左)と渡部教育長(左)に報告した吉野校長(中右)と國分教頭(右)

只見小に「欣游暢神」の書寄贈

墨雅書道会の相談役顧問や毎日書道展の審査会員をされる只見町出身の書家・新國雅堂さん(本名・新國恭司さん)郡山在住)は5月10日、只見小学校に自身がしたためた書「欣游暢神(ゆうをよろこびしんをのぶ)」を寄贈されました。これは、新國さんの母校であり、曾祖父・新國啓次郎さんが只見小の初代校長であったことから、創立記念日の同日に寄贈したもので、新國さんの父・博之さんも同席しました。寄贈した書は、「遊び楽しんで精神をのびのびさせる」意を表しており、児童が利用する多目的ホールに掲額されました。



▲書を手にする新國さん(中左)と吉野校長(中右)、同席した博之さん(左)と増田教育次長(右)

納税秩序の維持発展を称える
町納税貯蓄組合連合会が表彰

納税秩序の維持発展を称える

5月15日、福島県が主催する平成30年度各種功労者知事表彰において、只見町納税貯蓄組合連合会が「優良納税団体」として表彰されました。同連合会は、昭和45年の設立以来、47年余りにわたり、会長を中心に組合の育成強化に尽力し、納税意識高揚に努めるとともに期限内の高い納税率を誇り、納税秩序の維持発展に寄与されたことが評価されたもので、表彰式では栗木豊会長が内堀福島県知事から表彰状を受け取りました。

同日、栗木会長は役場で受賞報告を行い、菅家町長がその名誉を称えました。



▲内堀福島県知事(右)から賞状を受ける栗木会長(左)

連休前の再開通を祝う

国道252号再開通イベント

冬期通行止めとなっていた国道252号「六十里越雪わり街道」が4月27日に再開通し、翌日の4月28日に新潟県魚沼市の道の駅いりひろせで再開通式典が行われ、只見町や魚沼市などの関係者約40名が出席しました。

式典では、国道252号六十里越雪わり街道を愛する会の目黒長二郎会長や菅家町長などが挨拶し、連休前の再開を喜びました。続いて、関係者によるテープカットが行われ、再開通を祝いました。また、会場では特製の六十里まんじゅうやきのこ汁が振舞われ、只見町や魚沼市の特産品が販売されました。



▲テープカットで再開通を祝う関係者の皆さん

JR只見線の利用促進のために

町観光まちづくり協会が寄付

5月18日、(社)只見町観光まちづくり協会の目黒長二郎会長が役場を訪れ、全線復旧が決まったJR只見線の応援として集めた募金67,343円を町に寄付されました。

これは、同協会が販売する只見線オリジナルグッズの売上金の一部と、4月22日に会津鉄道で運行された臨時列車で寄付を募ったもので、目黒会長から菅家町長に寄付金を手渡されました。寄付を受けた菅家町長は感謝の意を述べました。

寄付金は、町のふるさと納税として収められ、只見線の利用促進に活用されます。



▲菅家町長(右)へ寄付金を手渡す目黒会長(左)

新緑の只見町を満喫

JR只見線「只見新緑満喫号」

5月26〜27日の2日間、JR只見線の臨時列車「快速・只見新緑満喫号」が新潟県新潟駅から只見駅間で運行されました。臨時列車は、新緑を迎えた大自然の中を走り、車内では「子ども車掌体験」として子どもたちが車内アナウンスなどを行いました。

只見駅前では、どぶろくや米焼酎ねっかななどの振る舞い、地元飲食店の協力で作られた只見町の駅弁「くっつけ只見弁」などを販売しました。また、ダム見学や遊覧船などが楽しめるバスツアーも企画され、2日間で訪れた計131名の乗客は只見の地を満喫していました。



▲新潟駅から只見駅間で運行された「快速・只見新緑満喫号」